



No.95
2018.10.30

SEA NEWS



- ①…特別対談 世界に向けて埼玉からできること、やらなければならないこと
～西野 朗・日本代表監督 & 鈴木 茂・(公財)埼玉県サッカー協会会長
- ②…特別対談 続き (選手たちの意欲が蘇った・高い意識)
- ③…特別対談 続き (他県から見れば「うらやましい」)
- ④…特別対談 続き (埼玉県が47番目?)

- ⑤…特別対談 続き 第73回 国民体育大会サッカー競技 関東ブロック大会 成年男子
- ⑥…第73回 国民体育大会サッカー競技 関東ブロック大会 女子 少年男子
- ⑦…大会記録●県内大会 1種社会人・4種・女子 ●県外大会 1種・2種
- ⑧…大会記録●県外大会 3種・4種・フットサル・シニア 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

特別対談

世界に向けて埼玉からできること、やらなければならないこと

～西野 朗・日本代表監督 & 鈴木 茂・(公財)埼玉県サッカー協会会長

地元埼玉県から、横山謙三氏(前(公財)埼玉県サッカー協会会長)に続き、西野朗氏が日本代表監督に就任し、FIFA ワールドカップロシア大会のベスト16に進出したことは、埼玉県サッカー協会のメンバーはもちろんのこと、県民の皆さんの喜びでもありました。本来ならば、就任後すぐにもインタビューをとりましたが、ワールドカップへの準備期間の短さを鑑み、大会後には結果報告とともに県民の皆さんへのコメントをいただきたいと考えていました。

併せて、この六月に鈴木茂氏が新たに会長職に就任しました。埼玉県サッカー協会としては新体制でスタートするにあたり、『世界に向けて埼玉からできること、やらなければならないこと』をテーマに西野監督と鈴木会長の対談を行いました。

(司会・構成 荒川裕治/広報委員)

プロローグ～「歴史はどこに」

鈴木 今度、県とJFAの協力をいただき、加須に「埼玉フットボールセンター(仮称)」を作るんですよ。旧騎西高校ですね。加須です。

西野 加須!

鈴木 ちょっとさいたま市からは離れるのですが、そこにミュージアム的なものを作ってもいいかなと思っています。

西野 それは浦和に作るべきじゃないですか。加須といえば、野球の花咲徳栄高校でしょう(笑)。

鈴木 近くには昌平高校があるのですが……サッカーの歴史のある浦和には、場所がないんですよ。考えなくてははいけませんね。

西野 改めてお聞きしますが、サッカーどころである埼玉のサッカーの歴史を見るところは、どこにもないんですか?

鈴木 残念ながら無いですね。

西野 それは早急に着手していただきたいですね。ここ(県協会事務所)に来ればあると思っていましたよ。

鈴木 無いんですよ。もっと言えば、代表選手が何年から何年まで活躍したとかという記録も無いんですよ。Jリーガーが何人いるとか、海外で活躍している選手が何人いるとかまとまったものがないんです。今、それを整理させているところです。

西野 残っていないじゃないですか?

鈴木 まとまっていないんですよ。

西野 私も100年史を作られたときに、映像で「埼玉サッカー100年!」と出ました。ああいうのを作っているから、しっかりしていると思うじゃないですか。

鈴木 今、歴史・記録の再整理を始めたところです。

使命を感じた

—さて、今日はよろしくお願ひします。いきなりですが、鈴木会長はアルディージャの社長時代、西野さんにオファーされたことは

あるんですか?

鈴木 詳しくは言えませんが……興味はありましたね。やはり地元出身の方に監督になってほしいというのはありました。

西野 私としては生まれ育った地元ですし、サッカーを通じてプロになって、小さい頃はプロなんて別世界でしたけど、それが実現できて、その中に身を置くことができ、指導者になりました。すべてはサッカーどころである浦和で生まれ育った故だと思っています。恩師の仲西駿策先生や松本暁司先生などいろいろな先生、指導者の方々に恵まれて、実業団(日立製作所)、そしてプロになって、サッカーしかわからない世界で生きてきました。最終的には地元で、恩返しということではないのですが、今の自分があるのはこの浦和の環境があつてのことです。今、地元のプロクラブが二つあるわけです。全国的に見ても恵まれた地域だと思います。チャンスがあれば、嬉しいですね。

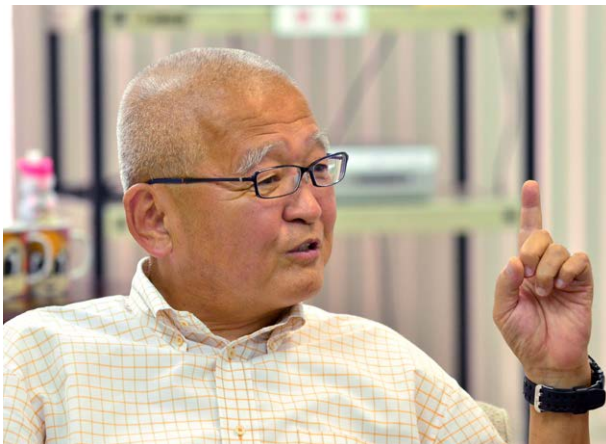
鈴木 ならばぜひ(笑)。さて、今回のワールドカップはお疲れ様でした。急な就任ではありましたが、日本代表の監督は横山さんに続いて、二人目の栄誉です。埼玉県民の皆さんは大変喜んでいました。まずお聞きしたいのは、監督を受けるときにどのように決断をされたのでしょうか。私も、ちょっと立場は違いますが、ここの会長を受けるときに様々なことを考えて決断しました。まずは、そこをお聞かせいただけますか。

西野 デリケートな話ではありますよね。自分が技術委員長をやっていたし、代表監督を推挙するのも……逆の決断を下し、体制を変える進言をする立場であったのも私です。今回の判断は、私も技術委員会として関わっていないわけではありません。最終的にはJFAの大英断だったと思います。

今年は韓国の平昌で冬季五輪も開催され「さあ次はサッカーのワールドカップだ」という時期になっても、サッカー界のムード、雰囲気は、上向きませんでした。それは代表チームの成果がよくなかったからだと思います。ですからネガティブな雰囲気が漂ったのは否めないと思っています。自分もチームを、監督を支えていかなければならない立場の中で、前監督へのサポートを強めていたわけですが、それでもなかなか向上しないチーム状態だったので、その中で最終的な協会の判断は、苦渋の決断だったと思います。ただ、そこで自分がそこで命を受けるとは、考えられる事ではありませんでした。ただ、あの直近で「これは受ける、チームを劇的に変えていかなくてはならない」という使命を感じました。

鈴木 使命ですか。

西野 代表チームを強化する、サッカー界を発展させたいというのは、技術委員長時代から変わるものではないと思っていましたが、現場に降りて「指揮をとらなければならない」という覚悟をしました。非常に短い準備期間でしたが、これは「NO」とは言えなかったですね。



鈴木茂氏



西野朗氏

鈴木 「NO」とは言えない……気持ちはわかりますね。西野さんはアマチュア時代から、サッカーを仕事にしてきたと思います。結果的に、代表チームの監督という、ある意味会社の社長のような立場となりました。それはサッカーを仕事としてやって来られたから、なった立場であって、その責任を持って持つほど引き受けるといふか、断れないということだったんでしょうね。また断るすべもないといふか。逆に言うと、そこまで思うほど責任を持って、技術委員長はもちろん、それまでの仕事に取り組まれてきたということですね。だから引き受けられたんですよ。

しかし、あのタイミングでは悩む時間も無かったのではないのでしょうか。

西野 数日はもらいましたけど、本心は言われた瞬間に覚悟は持っていましたね。ただやはり、技術委員長という自分の立場もあったので「もう一度冷静に考えよう」というのもありました。ただ、もうワールドカップ直前でしたので。でも「前任者を変えたい」という協会の方針、最終的な決断に対して自分が「いや、それは違う。続投なんじゃないか」という意見を持って議論をするのであれば、この監督は受けなかったでしょうね。

あと、サッカー界と選手たちの……これは選ばれた選手たちだけでなく、選手すべてが日本代表候補の対象になっているわけです。いろいろなことを考えて「ここで動揺や困惑や不安などネガティブなところをスパッと変えたい」というのは、瞬間的に思いましたね。ただ、仮に四年前や代表としてリスタートするのに時間的に猶予がある時期だったら、考えたかもしれません。

選手たちの意欲が蘇った

鈴木 なるほど。さて、監督に就任されて実際に「現場」に出て、想定外のことなどありましたか。

西野 代表選手たちの意識、意欲が蘇ったような気がしました。選手一人ひとり、自分の力が素直に出せる状況になったと彼ら自身が感じたのではないのでしょうか。何か解き放たれたような感じですね。体制が変わったことによって選手たちもすごい危機感を感じて覚悟を持って、代表チームに入ってきました。日本サッカー界の四年前を振り返ったら、世界に惨敗しているわけです。そこからスタートしている彼らの思い、気持ちは僕が思っている以上にそこにありましたね。「これさえ引き出せば」とか、「できないものを作る」よりは、今彼らが出している意欲、それを素直にワールドカップで出してくれることができれば、ある程度いいチャレンジができるのではないかなと思いました。

体制が変わったことで当然雰囲気は変わりますし、選手も覚悟を持って取り組み始めているのを見て、あとは私が選手たちをどう突き付けるか、どんどん燃やしていけるものを作れるかだけでしたね。自分には画期的なマジックがあるわけではないので(笑)、今あるものを全員で共有して、共通理解を持って行くだけでしたね。

鈴木 シンプルだったんですね。

西野 難しいといふか、今までやれなかったことをやろうとしているではありませんでしたから、日本人選手が持っているもの、

日本代表チームが出せるサッカー、それを選手たちが自分たちのクラブでやっているようなパフォーマンスをそのまま発揮して融合できれば、いいチャレンジができると思いましたが、対戦相手のハードルは高いですよ。

鈴木 もちろん対戦相手次第というのはありますが、それ以前に「自分たち」だったんですね。

西野 そうです。

鈴木 チームは組織で、その組織はメンバー一人ひとりによって作られています。そこでどうメンバーの意識を高めていくのか。参考になりました。

私も前職ですが、大宮アルディージャの社長になるときは突然呼ばれて、2010年に「社長をやってくれ」と言われました。「いつからですか?」と聞いたら「来週から」と言われて、「えっ!」って(笑)。「ここで決めてくれ」と言われましたね。

そこで考えたのは、アルディージャには選手以外にもスタッフがいます。役員も、フロントの一担当者も。で、その人たちが100パーセントの力を発揮しているのかどうかでした。実力を100パーセント出させるためにはどうすればいいのかを考えました。

一つの業務に対して、社長である私が「やれ」と言ったら、社員はやるんです。「社長から言われたから」と。だけど、その社員は成功した時には「やりましたよ、がんばりました」というのですが、失敗したときには簡単に「社長に言われたままやりました。それで失敗しました」と(苦笑)。人間というのは、そういう部分がありますから、そういう言い訳を言わないように「彼ら自分たちで考えて」100パーセント結果を出せるようにしてあげなければなりません。自発的に、ということですよ。

ただ自発的ということのは非常に難しく、私が考えているレベルと担当者が考えているレベルが違うわけです。まずとスキルもノウハウも違いますからね。ですから担当者が自発的にやっても、失敗してしまうこともあるんです。またはこちらが望む結果にならないこともあるんです。だから何をしなければならぬのかというのは、社員たちが同意してやってくれるためにも、常にコミュニケーションを取ることです。ですから現場に「気配り、目配り、心配り」なんです。これを常に自分の意識の中に入れておきながら、自発性を出させるように促すわけです。

また自発的にといひながら、私が100を望んでいるのに担当者は30しか考えていないかもしれません。となると全体の結果は出なくなりますよね。ですから「自発性を」と言いながらも、担当者が何を考えて取り組もうとしているのかをコミュニケーションを取りながら、例えば30から少しでもレベルを上げていくことばかりを考えていたような気がします。

高い意識

——それこそコミュニケーションということであれば、西野さんは常に選手たちとコミュニケーションをしてきたのではないのでしょうか。

西野 コミュニケーションというのは指導の基本、と言えば基本ですね。お互いに要求すること、選手たちも「自分はこれだけで

きる、こんなことをやりたい]ということを主張してくるんですね。チームの中でそういう個のプレーが生きたら、これは素直にそれぞれのそのまま主張がグラウンドでパフォーマンスとして出ることですから素晴らしいことです。しかし、サッカーの場合、そうはいかないですね。いろいろな融合の中で自分のやりたいことをグループに伝え、要求していくわけです。また聞いた選手も自分の要求を伝えるわけです。グループの中でお互いに主張することは大事ですが、共有することが「個」を生み出していくと思うのです。

プラス、突然チームの中でコミュニケーションがよくなった、疎通がよくなると驚くようなプレーが出たりもします。まず主張させることが大事だと思うんですね。その裏には責任もあるし、「そのためには自分がこうしなければならない」「このくらい動かなければならない」という自覚、自発的な思いの積み重ねだと思うんですね。「自分もこのくらいできるぞ。でも難しい」と考えた時に「こういう力を借りることができたらできる」と思ったら、仲間に要求できるんです。だからコミュニケーションは必要ですね。お互いの要求を伝える作業をしていかななくてはならないと思うのです。「自分が生きるためのプレー」をしたい場合は、そういうことを積み上げていかなければ、チームスポーツにならないと思います。もちろんスーパースターがいれば一人で打開もできるでしょうが、日本代表についてはそういう作業を密に行いながら、自分たちが持っている技術をどう活かすかでした。

日本代表の個々の技術は世界的にも高いレベルだと思います。プラス規律、組織的なグループとしてやろうとしている結束力というのが、また良さだと思うのです。これが「日本化」されているフットボールです。個ですべてを解決するのではなくて、チームとして融合した中でパフォーマンスを見せる……こういう作業はお互いのコミュニケーション無くして成立しないでしょう。でもそのうち、そういう作業を積み重ねなくても、それこそアイコンタクトで、また選手同士お互い見ていなくても意思の疎通が図れるレベルになればいいですね。そういうレベルになって、ビッグプレーが生まれると思います。そのベースにはお互いの声かけとか必要で、シンプルなことですね。

— そういうお話を聞くと、今回はあまりにも時間が無すぎたような気がします。いかがでしょうか。時間との闘いだったのではないのでしょうか。

西野 新しいモノを作り出そうということではなかったですからね。全く別のスタイルのサッカーを披露しようとは思わなかったですね。選手同士はそこまでの過程の中で様々なコミュニケーションを取っていますし、それ少し食い違っていたり、監督の理想がすごく高くて、ただそこを追いかけただけなんです。実際自分たちができることの判断が誤っていたのかもしれないし、そういうことを思い出すことは簡単だったと思います。全く知らない同士と一緒にプレーするわけではありませんでしたから。意思の疎通さえできれば、もっとできると自信を持たせることを日々積み上げていったんです。

でも、本当に選手たちの貪欲さというか……選手たちからは誰からも「時間がない」というエクスキューズ(疑問)は無かったで



すね。常に自分のプレーをワールドカップで出したいと思えば、自分の力だけでは出せない、仲間の力を借りなければできない、そのために意思の疎通を図らなければならない……ピッチ上だけでなく、ミーティングでも激論はありますし、主張もありましたが、それらをすべてグラウンドで解決していくという繰り返しの短い間にしていたんですね。でも、こういう時間がもっと「猶予があればなあ」とも思いましたよ(苦笑)。さらに時間があつたら様々な可能性もあつたかもしれません。

これが日本のサッカー界が世界のトップレベルに近づく大会になったと思います。大会を通じて、日本のサッカーをアピールすることはできたと思います。

他県から見れば「うらやましい」

— これからのSFAを考える上で貴重な話ですね。まずはメンバーがもっと意識を高く持つことだと思いました。

鈴木 私の話になりますが、ここの会長を引き受けることについて非常に悩みました。悩みましたが、受けることにしました。そこで受けるための最大の目的は、高校サッカーの復活です。ここ30年以上、埼玉県の代表チームは全国で優勝できていません。代表選手を見ても、サッカー人口から言えば「多い」とは言えません。私もアマチュアでサッカーしていて、社長時代も含めて20年、アルディージャに関わってきました。クラブの地元地域の高校年代の結果を見て「どうにかならないのか」と思っていました。今回、横山(謙三)前会長が私に声をかけてくれたのは、こういうことも含めてやってほしいことだと思っています。組織的な改革もありますし、レガシーをどう残すかも課題ですが、もう少しレベルを元に戻したいと考えています。

ご存知だとは思いますが、現在、47都道府県では東京都協会に続く二番目の規模です。それだけ大きな協会にも関わらず、西野さん、川島(永嗣)選手、原口(元気)選手に続く選手がいるかと聞かれられないですよ。「他県に行つてがんばっている選手がいるからいいのでは」という方もいらっしゃいますが、昔の埼玉はそうじゃなかったですよ。浦和高校、浦和西、市立浦和、浦和南、武南……昔の埼玉を知っているだけに、戻したいんですね。そういう思いがあつたので引き受けました。だから、これまでやることができなかつたことも含めて振り返って、「100年史」を出したのはいいのですが、「100年史」のことを知っている方は少ないです。例えばホームページ上に「今の現状はこうですよ、こんなにがんばっていますよ」というのが出ていればいいのですが、ないですよ。学校の先生たちは75年史や100年史のことを知っているでしょうが、今、登録している小学生のお父さん、お母さんがご存知かという知りませんよ。そういう歴史をしっかりと噛みしめて、前に進んでいかなければならないと考えています。

全国の方から「埼玉といえばサッカーだ」と言われた。レッズ、アルディージャだけでなく、ベースであるアマチュアのところをなんとかしたいという思いがあつて、会長に就任しました。横山さんからはっきりは聞いていませんが、多分横山さんも同じ気持ちだと思っています。こういうことをしっかりとしていくと、世界に飛躍できると思うのです。





西野 埼玉の場合は、Jクラブが二つあるじゃないですか。レッズはJリーグの最高峰のクラブです。それに対抗するアルディージャがあり、子供たちにとっては身近に素晴らしい目標があります。ただ、両クラブに入ることはさほど大きな目標だとは思わないんです。そういうことを幼少からしっかりと積み上げていけば、そこまでは到達できる目標だと思います。しかし、そこから日本代表選手になる、サッカー先進国のクラブに飛び込む——原口もそうじゃないですか。そういう意識を子供たちが自然と持っている状況を作りながら、さらに手立てを与えていかなければならないと思うのです。いい環境があって、目標があって、うらやましいと思いますよ、他県から見れば。

そこで施策が必要です。学校体育とクラブの共存も考えないといけません、2つあることの弊害もあります。ただ、日本の強みは学校とクラブの2wayがあって、頂点があることです。お互い切磋琢磨できる環境があります。それが埼玉にはあるじゃないですか。ここから「王国」復活を本当に願っています。一朝一夕にトップチームが、代表チームがよくなることはないんです。普及活動、グラスルーツでの活発な活動を行い、環境も整えていくことを並行して考えていく必要があります。

ただ客観的に見ると難しいと思うのです。「なぜ埼玉からサッカーの発展を感じないのか？」と。

鈴木 (苦笑)

西野 これは何か課題があるんだろうなと思います。好条件が揃っていないながら、選手が育ってこないのか。

鈴木 これまで私は「アルディージャを強くしよう」「アカデミーからいい選手を育てよう」と取り組んできました。それはアルディージャだけのことなんです。もちろん、簡単に言えばレッズに負けたくないということもありました。イコールそれが埼玉県のサッカーのレベルアップに繋がると。ただ今となったら、それはちょっと視野が狭かったと思っています。ただ単にアルディージャとレッズが強いだけではダメだと。アルディージャとレッズが子供たちの目標になるというお話がありましたが、そうなんですよ。両クラブのアカデミーの子どもたち以外にも、アルディージャのことを、レッズのことを好きな子どもたちはたくさんいるのです。アルディージャの社長時代、そういう子どもたちのことまで目をかけてやってきたかと聞かれると、そうではなかったですね。スクールやクリニックなどたくさんやりましたが、そこは足らなかったという思いはあります。アルディージャ、レッズに協力を得ながら、全体を取りまとめているSFAの仕事だと思います。

社長時代はまず経営を成り立たせること、赤字にならないこと、これがサッカーの発展に繋がると思っていました、ここに来て、それは反省しています。

埼玉県が47番目？

— そのときそのときで立場がありますから。そのお立場で全力を尽くしてこられたと思います。さてこれからの埼玉をよりよくしていくための対談です。改めてお二人が言葉にされたことをキーワードにしていくと、もっとハードとソフトの部分のボトムアップが急務だと思います。



鈴木 先ほども全国で二番手の都道府県協会という話をしましたが、ピッチの数は全国で47番目なんです。登録メンバーが多いこともありますが、ピッチが少ないという事実があるんです。しかし、こういう事実を誰も知らないんですね。これから埼玉のサッカーのレベルを上げていくには、施設も作らなければいけません。県に対して、各市町村にもお願いしなければなりません。各学校に対しても。その際に、こういう状況も“見える化”して伝えなければ、ダメだろうと思っています。内部的にも、1種から4種までが同じ認識を持っていなければいけません。施設が無い、代表選手が少ない……同じ課題を同じように認識した上で、各方面に協力をお願いする仕組みを作らなければならないと考えているのです。メンバーだけでなく、県民の皆さんが同じ認識を持てば、各方面からの理解も得られると考えています。

そう、我々SFAが何を考えているのか発信しないと、わからないのです。その基礎ベースを“見える化”にして資料としてまとめたいのです。

西野 今、「日本には47以上の都道府県は無いんだよな」と思いながら聞いていました(笑)。

鈴木 アルディージャの社長のときは知らなかったですよ。アルディージャもレッズも自分たちでグラウンドを持って、アカデミーにも専用グラウンドを持っています。「これでいい」と思っていました。もし、埼玉が最下位だと知っていたら、近くの少年団に貸してあげればよかったですね。これからは埼玉県が置かれている現状を各方面へ情報提供しながら、各チームにがんばってくださいという話をしなければならぬと思うのです。

すみません、またちょっとドメスティックな話になってしまいました(苦笑)。

西野 いやいや、大事な話です。しかし、サッカー人口はトップクラスですよ。

鈴木 東京に次いで、二番目です。

西野 ということを知ると「埼玉って、サッカーに対して二流県だな」って思うわけです。しかし、サッカーは盛んだし、成長しているわけなんです。さらにこういう環境面に特化してだけで変わっていく可能性もありますよ。

今はどの県もサッカー環境は大きな課題で問題視されています。またスポーツが多様化していて、人気があるのはサッカーだけではありません。ですからサッカーだけ環境を整えるというわけにもいきません。難しいですね。しかし、選手のクオリティを上げていくながら、環境を整えるだけでもよくなるでしょうね。

— 直近ですと、浦和南高校のグラウンドが人工芝になりました。今年は高校総体に出場するなど成果が出ています。

西野 家が近所でジョギングをしていたら、いつの間にか人工芝になっていて驚きました。浦和西はどうですか？ 浦和高校は？

実は周りから言われたんですよ。「何かあったら、アピールしてくれ」と(笑)。

— 西高はいいんじゃないですか。サッカー専用でグラウンドを使っていますし。あと県立高校だと、浦和西、大宮東、浦和東でしょうか。

鈴木 えっ、土のグラウンドでも専用グラウンドを持っている高校は少ないんですね。

西野 どこかモデルケースでやってみればいけないですか。
鈴木 県に対して要望するということですね。そこで環境を整えるためにも指導者もという話になります。

西野 高校の指導者が丸くなったと思います。難しい話ですが、昔は厳しかったじゃないですか。向いていたところが全国で「埼玉を制する者は全国を制す」でした。全国大会で勝ち上がるよりも県内で優勝することが難しかったのですから。

—— それも意識の問題でしょうか。

西野 昔は他県が埼玉、静岡、広島の真似をしていましたよね。システムや指導の方法……。それが広まり、全国的に平均化してきました。ですからどこが勝つかわからなくなってきました。埼玉は模倣されればなしとなり、具体的な施策を打ち出せないまま、頭打ちになってきたんでしょうね。そんな中、私立高校が台頭してきて。

鈴木 お恥ずかしいですが、私も何年か前は「昌平ってどこ？ えっ埼玉？」って言いました。

西野 でも、上手いんですよ。テレビで見入ってしまって。そうしたら藤島さんが親子（信雄氏・元日本代表、崇之氏）で指導されていると聞いて「なるほど」でしたね。

鈴木 もう時間が来てしまいました。ご指摘いただいたミュージアムは作りたいですね。

西野 お願いします。それだけでも偉業になりますよ。

鈴木 早速、期待に沿えるかどうか、がんばってみます。

—— さて最後になりますが、西野さんの「これから」をお聞かせください。

西野 先ほども言いましたが、ここで生まれ育って、恩返しをしたいなと。埼玉もそうですが、日本のサッカーに対してもですね。今回、ワールドカップという世界のトップの大会で監督として仕事ができましたが、子どもたちの育成、グラスルーツをしっかりしていかない限り続かないのだなと思いました。学校体育とJリーグのアカデミーという課題もありますが、そういう部分でもなんらかの力になりたいなと思っています。そしてその延長で日本代表に繋がっていくところに携わっていきなと思っています。

鈴木 今日はありがとうございました。またご助言を賜りたいと思います。今後ともよろしくお願いします。



西野 朗 (にしの あきら)

旧浦和市出身。1955年生まれ。

浦和西高校、早稲田大学を経て日立製作所に入社。大学在学中に日本代表入りし、1990年に現役引退。1996年、28年ぶりにオリンピック出場を果たし、ブラジル戦で勝利した（「マイアミの奇跡」）。その後、柏レイソル、ガンバ大阪、ヴィッセル神戸、そして名古屋グランパスの監督を歴任。J1の監督として挙げた270勝は歴代1位。2016年にJFA技術委員長、2018年4月9日には電撃的に日本代表監督となり、FIFAワールドカップロシア大会において、初戦のコロンビア戦に勝利。グループリーグを1勝1分1敗で通過、日本代表をベスト16に導いた。

第73回 国民体育大会サッカー競技 関東ブロック大会

8月18、19日に「第73回国民体育大会関東ブロック大会」が茨城県ひたちなか市と水戸市で開催された。少年男子は初戦の代表決定戦で群馬県を2-0で下して4年ぶりの本大会出場を決めた。成年男子と女子も初戦を突破し代表決定戦に駒を進めたが、成年男子は栃木県にPK戦で阻まれ、女子は神奈川県に惜敗。残念ながら本大会出場を逃した。

※少年男子は本大会で優勝。詳細は次号でレポートします。

●成年男子

1回戦 山梨県 0 - 1 埼玉県
得点者：66分中島

代表決定戦 栃木県 0 - 0 埼玉県
(4PK2)

※栃木県と東京都が関東代表として本大会へ出場



1回戦 埼玉県 vs 山梨県



埼玉県成年男子



代表決定戦 埼玉県 vs 栃木県

●女子

1回戦 群馬県 0 - 1 埼玉県
得点者：60分加藤

代表決定戦 埼玉県 0 - 1 神奈川県
※千葉県と神奈川県が関東代表として本大会へ出場



1回戦 埼玉県 vs 群馬県



代表決定戦 埼玉県 vs 神奈川県



埼玉県女子

●少年男子

代表決定戦 埼玉県 2 - 0 群馬県
得点者：29分村上、56分松村

※埼玉県、山梨県、千葉県、茨城県が関東代表として本大会へ出場



代表決定戦 埼玉県 vs 群馬県



埼玉県少年男子

成年男子

監督 秋山 健二 (さいたまサッカークラブ)

No.	位置	名前	チーム名
1	GK	松井 匠	さいたまサッカークラブ
2	DF	倉持 結聖	東京国際大学 FC
3	DF	宮下 航輔	東京国際大学 FC
4	DF	小島 俊貴	さいたまサッカークラブ
5	DF	南 大輔	東京国際大学 FC
6	MF	小倉 朋也	東京国際大学 FC
7	MF	今林 義佑	さいたまサッカークラブ
9	FW	中島 大智	東京国際大学 FC
10	FW	伊藤 駿	東京国際大学 FC
11	MF	長島 昂平	東京国際大学 FC
12	GK	重信 巨佑	東京電機大学
13	DF	砂川 洸介	東京国際大学 FC
14	MF	溝口 拓郎	さいたまサッカークラブ
15	FW	瓜谷 紫	さいたまサッカークラブ
16	MF	細田 真也	さいたまサッカークラブ
18	DF	鎌田 雄	さいたまサッカークラブ

女子

監督 下山 薫 (浦和レッドダイヤモンズレディースユース)

No.	位置	名前	チーム名
1	GK	福田 史織	浦和レッドダイヤモンズレディースユース
2	DF	高橋恵美理	浦和レッドダイヤモンズレディースユース
3	DF	長嶋 洸	浦和レッドダイヤモンズレディース
4	DF	長嶋 玲奈	浦和レッドダイヤモンズレディース
5	DF	久保真理子	東洋大学体育会サッカー部女子部
6	MF	栗島 朱里	浦和レッドダイヤモンズレディース
7	MF	加藤 千佳	浦和レッドダイヤモンズレディース
8	FW	小嶋 星良	オルカ鴨川 FC
9	MF	塩越 柚歩	浦和レッドダイヤモンズレディース
10	FW	西尾 葉音	浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース
11	MF	遠藤 優	浦和レッドダイヤモンズレディース
12	GK	伊能 真弥	浦和レッドダイヤモンズレディースユース
13	MF	木崎あおい	浦和レッドダイヤモンズレディース
14	DF	三木 萌子	順天堂大学女子蹴球部
15	DF	井之川茉優	浦和レッドダイヤモンズレディースユース
16	FW	大西 若菜	浦和レッドダイヤモンズレディースユース

少年男子

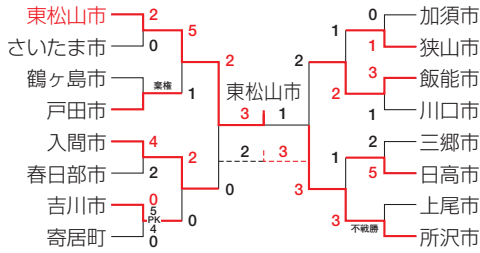
監督 大野 恭平 (大宮南高校)

No.	位置	名前	チーム名
1	GK	久保 賢也	大宮アルディージャユース
2	DF	田中 颯太	大宮アルディージャユース
3	DF	村上 陽介	大宮アルディージャユース
4	DF	中山 昂大	大宮アルディージャユース
5	DF	佐藤 優斗	浦和レッドダイヤモンズユース
6	DF	梅澤 魁翔	大宮アルディージャユース
7	MF	柴山 昌也	大宮アルディージャユース
8	MF	盛 嘉伊人	浦和レッドダイヤモンズユース
9	MF	松村 大也	浦和レッドダイヤモンズユース
10	FW	堀井 真海	浦和レッドダイヤモンズユース
11	MF	須藤 直輝	昌平高校
12	GK	ジョーンズレイ	大宮アルディージャユース
13	DF	山田 結斗	大宮アルディージャユース
14	MF	木下 翼	浦和レッドダイヤモンズユース
15	FW	山内 太陽	昌平高校
16	FW	大澤 朋也	大宮アルディージャユース

大会記録 ● 県内大会

1種・社会人

2018年度埼玉県「県民総合体育大会」サッカーの部
8月5日～9月2日 埼玉スタジアム2002他



※優勝は東松山市

4種・少女

第16回埼玉県少女サッカーフェスティバル

吉見ふれあい広場

●決勝リーグ

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	戸木南	2	1	0	8	4	+4	7
2	与野FC	1	1	1	5	6	-1	4
3	陣屋アイリス	1	0	2	5	6	-1	3
4	戸塚G	0	2	1	1	3	-2	2

●順位リーグ

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	東大宮	3	0	0	6	3	+3	9
2	越谷LF	2	0	1	7	4	+3	6
3	川越なでしこ	1	0	2	2	5	-3	3
4	狭山女子	0	0	3	1	4	-3	0

※優勝は戸木南ボンバーズFC

女子

第22回埼玉県U-18女子サッカー選手権大会 兼
第22回関東U-18女子サッカー選手権大会埼玉県予選

1回戦 浦和レッズ 20-0 SEフィリアFC
ちふれASエルフェン埼玉マリ 4-0 FC川越水上公園メニーナ
決勝 浦和レッズ 2-3 ちふれASエルフェン埼玉マリ (延長)

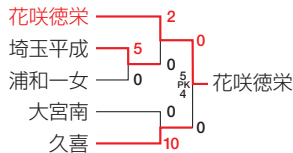
※優勝したちふれASエルフェン埼玉マリは関東大会に出場する。浦和レッズレディースユースは関東地区プレーオフに出場する。

平成30年度埼玉県高等学校女子サッカー選手権大会

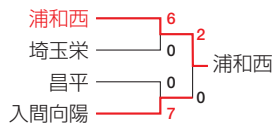
8月20日～9月24日 埼玉スタジアム2002他

●決勝トーナメント

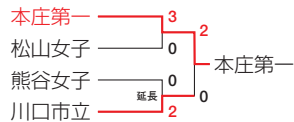
【A組】



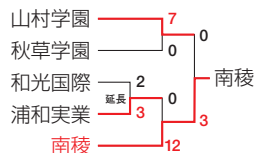
【B組】



【C組】



【D組】



●決勝リーグ

順位	チーム	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	花咲徳栄	9	3	0	0	11	1	+10
2	南稜	6	2	0	1	5	3	+2
3	本庄第一	3	1	0	2	4	4	±0
4	浦和西	0	0	0	3	1	13	-12

※優勝は花咲徳栄高校

大会記録 ● 県外大会

1種

天皇杯JFA第98回全日本サッカー選手権大会

8月22日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

ラウンド16 浦和レッズ 1-0 東京ヴェルディ

第52回関東サッカーリーグ(全日程終了)

●1部リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	引分	負	得失点差
10	さいたまサッカークラブ	9	2	3	12	-35

●2部リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	引分	負	得失点差
5	東京国際大学FC	28	6	6	5	+5

第25回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会

9月22日～24日 宇都宮市サッカー場

1回戦 アヴェントゥーラ川口 3-1 バイラル湘南

準決勝 VONDS市原 Vert 2-2 アヴェントゥーラ川口 (3PK4)

決勝 アヴェントゥーラ川口 1-0 東大ユナイテッド

※アヴェントゥーラ川口が埼玉県勢として初優勝。12月の本大会に出場する。



2種・高体連

平成30年度全国高等学校総合体育大会

8月7日～13日 三重県各地

1回戦 高知中央高校 1-6 昌平高校
松本国際高校 0-0 浦和南高校 (2PK4)
2回戦 昌平高校 4-2 青森山田高校
東福岡高校 3-0 浦和南高校
3回戦 札幌大谷高校 2-3 昌平高校
準々決勝 昌平高校 2-1 大津高校
準決勝 桐光学園高校 3-2 昌平高校
※昌平高校は3位。優勝は山梨学院高校



第3位 昌平高校



浦和南高校



1回戦 浦和南 vs 松本国際



1回戦 昌平 vs 高知中央



2回戦 浦和南 vs 東福岡



2回戦 昌平 vs 青森山田



3回戦 昌平 vs 札幌大谷



準決勝 昌平 vs 桐光学園

3種・中体連

第49回関東中学校サッカー大会

1回戦

坂戸市立若宮中学校 2-1 潮来市立日の出中学校(茨城県)
船橋市立八木が谷中学校(千葉県) 1-1 朝霞市立朝霞第二中学校 (3PK4)

2回戦

藤沢市立藤ヶ岡中学校(神奈川県) 2-1 坂戸市立若宮中学校
朝霞市立朝霞第二中学校 1-0 那須塩原市西那須野中学校(栃木県)

第5代表決定戦

坂戸市立若宮中学校 0-2 暁星国際中学校(千葉県)

7位決定戦

吉岡町立吉岡中学校(群馬県) 3-0 坂戸市立若宮中学校

準決勝

朝霞市立朝霞第二中学校 0-0 守谷市立御所ヶ丘中学校(茨城県) (5PK6)

※決勝は悪天候のため開催されず。3位となった朝霞市立朝霞第二中学校が本大会へ出場

平成30年度全国中学校体育大会 第49回全国中学校サッカー大会

8月18日~23日 鳥取県各地

1回戦

ルーテル学院中学校(熊本県) 1-0 朝霞市立朝霞第二中学校

※優勝は日章学園中学校(宮崎県)

3種・クラブ

第33回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

8月15日~24日 北海道

●グループステージ

【グループA】 浦和レッズ/1位

北海道コンサドーレ旭川U-15(北海道) 1-2 浦和レッズ

FCトッカーノU-15(東京都) 3-4 浦和レッズ

宇治FCジュニアユース(京都府) 2-3 浦和レッズ

【グループC】 東松山ペレニア/4位

ディアプロッサ高田FC U-15(奈良県) 1-1 東松山ペレニア

三菱養和SC栄鴨ジュニアユース(東京都) 4-0 東松山ペレニア

東松山ペレニア 1-4 パテオFC金沢ジュニアユース(石川県)

【グループF】 GRANDE FC/2位

GRANDE FC 4-1 セブン能登ジュニアユース(石川県)

GRANDE FC 1-3 サンフレッチェ広島F.Cジュニアユース(広島県)

GRANDE FC 2-0 愛知FC U-15(愛知県)

●ノックアウトステージ

【ラウンド32】 GRANDE FC 2-1 東京ヴェルディジュニアユース

浦和レッズ 1-2 S.T.FC

【ラウンド16】 GRANDE FC 0-2 北海道コンサドーレ旭川U-15

※優勝はサンフレッチェ広島F.Cジュニアユース

4種

2018フジパンCUP 第42回関東少年サッカー大会 in 千葉

8月25日、26日 フクダ電子フィールド他

【Aブロック】 FCリアル/2位

三菱養和栄鴨 3-0 FCリアル

FCリアル 6-0 中道セレソ

【Cブロック】 杉戸ゼウシスFC/2位

柏レイソル 2-0 杉戸ゼウシスFC

杉戸ゼウシスFC 2-0 フォルトゥナSC

【Fブロック】 浦和レッズ/3位

FC VALON 5-2 浦和レッズ

パディサッカークラブ 10-0 浦和レッズ

※優勝は鹿島アントラーズつくばジュニア

フットサル

JFAバーモントカップ 第28回全日本U-12フットサル選手権大会

8月17日~19日 駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館・屋内球技場

【グループC】 江南南サッカー少年団/2位

広原サッカースポーツ少年団(宮崎県) 1-3 江南南サッカー少年団

エスピーダ旭川(北海道) 4-3 江南南サッカー少年団

ディアプロッサ高田FC(奈良県) 1-3 江南南サッカー少年団

※優勝は大阪市ジュネッスFC

シニア

第13回関東シニアサッカー選手権大会O-60

9月8日、9日 宇都宮市河内総合運動公園陸上競技場他

●予選リーグ

【A組】 パルスFC/1位

パルスFC 4-0 湘南茅ヶ崎FC赤羽橋60

パルスFC 1-1 山梨シニア

パルスFC 2-0 日立FC

●優勝決定戦

パルスFC 1-1 FC前橋60

(2PK4)

※パルスFCは準優勝

編集後記

ロシアW杯で日本代表を率いた西野朗監督をお招きし、鈴木会長との対談が実現しました。西野氏の地元・埼玉に対する想いと、鈴木会長の「埼玉のこれから」をつくる熱量が交錯した時間。今号の特別記事として、その全容を掲載させていただきました。両氏の想いを共有していただければ幸いです。

夏から秋へ、各カテゴリーの大会が集大成へ向かって県内各地で展開されています。全国大会での活躍、嬉しいニュースも飛び込んできています。詳細は次号でお伝えします。

日増しに寒さが厳しくなります。選手の皆さん、くれぐれも体調管理に留意してください。ベストゲームを期待します!(藤田)